

4時間の百武彗星 (1996 B2)の尾の変化

撮影日 : 1996/03/22 カメラ : PENTAX MX
フィルム : FUJISUPER G800 レンズ : PENTAX 120mm F2.8 (3.3)
赤道儀 : 高橋製作所 P-2S 自動ガイド 撮影 : 片山 徹 (和歌山県南部川村にて)

双眼鏡で見ている気はしていませんでしたが、現像が上がってきくと、撮影していた4時間で尾の形が随分変化していました。それぞれの写真は条件が少し違っているので、調整して右の画像の様に並べて比較してみました。AからBの約1時間で枝の様なくっきり分岐した尾が曲がっている事がわかります。

BからCの46分間で更に分岐した尾が更に変化しているのがわかります。(後ろにズレていっている) また、尾の本体もずいぶんウネウネ変化していて、ほんの数時間の単位で太陽風の影響で激しく吹き流されている事がわかります。

CからDの間はカメラのレンズを替えた為に1時間半ほど経過しています。分岐した尾はかなりボンヤリ広がっていてAの画像のような「クッキリ感」が無くなっています。(画像の右上が白いのは尾が画角からはみ出してしまった為です。)

橙色の矢印の様に小さくハッキリしたコブの様な濃い部分(核から剥がれた氷塊?)が頭部から時間と共に離れてる様子が見えます。この様に詳しく尾の様子が見れたのは撮影時の地球から百武彗星までの距離が約 0.13AU (1950万キロ) という近距離であった事が挙げられます。

A 24h11m (07m)



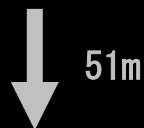
B 25h07m (05m)



C 25h53m (10m)



D 27h26m (12m)



E 28h17m (10m)

